

日本声楽発声学会

学会通信

第19号

会員の皆さまへ

理事長 米山文明

秋冷の候、会員の皆様にはご壮健にご活躍のこととお慶び申し上げます。学会通信19号をお届けいたします。

本年は梅雨の頃の季節はずれの台風襲来に始まり、夏から秋にかけては記録的な猛暑、豪雨、突風など正に天変地異の自然現象に加え、人災とも思える役人、政治家の背任事件、白骨化した年金者、部屋の中での熱中症事故など（実は私は個人的には、この「熱中症」という言葉が嫌いです。何に熱中して倒れるのかわからないのと、こういう術語が蔓延すること自体、違和感を感じます）。

本学会も6月から新執行部がスタートし、新理事会は学会のありかたそのものに根本的な見直し作業に入っています。突発的異変で臨時総会での「会則改訂」が流れてしまい、その骨組の立て直し決定が基盤になりますが。

学会誌の改装に加え、例会のありかた（内容、形式を含め）、研修会、研究会や中長期的展望、計画、学会としての研究テーマの設定、その他を含めて検討を始めました。

懸案の学会編集による用語集もようやく第1刷ができ、近くお配りできるはずですが、ただし、予算の関係もあり、決して十分とは言えません。これをたたき台にして随時改訂、増補を進める予定ですので、会員の皆様の忌憚のないご意見

をお寄せください。特に音楽用語につきましては、専門委員が多かったのが、かえって意見統一のむずかしさになったのかもしれませんが。音楽用語も含め、各部門の末尾に文献、資料を入れてありますので、とりあえずは、それぞれの専門書と事典類をご参考の上、補足していただきたいと思えます。

学会の具体的諸活動につきましては、理論、演奏、教育に各分野の新役員・理事に加わっていただき、目下いくつかのテーマで研究の実践計画を練っておりますので、順次ご提示できるはずですが。

5月以降の行事としましては、夏の研修会が今年は東京（新大久保、ルーテル東京教会）に戻りました。地方からも酷暑の中を熱心な会員の皆様にご参加いただき、大変活気あふれる勉強会になりました。ハイルマン先生の白熱したレッスンや淡野先生のユニークな発声講座など有意義に行われました。

夏の研修会につきましても、テーマの選択や人選、地方での開催など、いろいろな問題を含めて今後のありかたを執行部でも検討しております。会員の皆様にもぜひこれらの点につき、ご意見を賜りたいと熱望しております。

事務局内部の大幅な変革を計画実行中です。予算の裏付けの枠内という制約はありますが、これまでの人的組織形態や事務の電子機器導入など、これまで会員諸賢から寄せられたご意見を加味して、改善に努力を始めております。

最後に悲しいお知らせです。今年の異常気象の影響もあつたのでしょうか、本学会に大きなご貢献をいただいた前理事・監事の早瀬一洋先生（9月）矢野滋先生（8月）がお亡くなりになりました。両先生には演奏、教育、会計監査、選挙管理委員など、大変お世話になりました。温かなご人格と真摯な演奏・教育の姿勢は、学会の大きな柱となって私たちを支えてくださいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員の皆様のますますのご健康とご活躍を祈念し、学会へのご支援とご鞭撻をお願いいたします。

第13回教育部会開催について

第13回教育部会を下記の要領で開催いたします。どうぞご参加ください。

1. 平成22年11月27日(土) 13:00~16:30 東京芸術大学音楽学部5-109

2. プログラム

A 発声指導の初期段階における実践方法の参考に(その2)

息の流れを声につなぐ—お話と実技—

講師 米山文明(本学会理事長)

中山雅夫(A-TT指導者、会員)

B 横浜雙葉学園における合唱実践(録音による)

—芸術と教育の両立をめざして

講師 川上勝功(横浜雙葉学園講師・本学会理事)

C 質疑応答 上記A、Bについての質疑応答およびディスカッション。

D フリーディスカッション

◎テーマを募集します(発声および音楽教育に関して)。

日ごろ、疑問に思っていることやご意見等を書面でお寄せください。

・11月26日(金)までに事務局へFAX.(047-479-5701)または郵送。

・11月27日(土)13時までに会場受付へご持参ください。

なお、提出多数の場合は、時間の都合上、選択させていただきますことをご了解ください。

3. 会費 2,000円 当日、会場受付で納入してください。

[連絡先] 学会事務局 TEL./FAX. 047-479-5701

「若人のためのオペラ・オーディション」のご案内

下記の要領でオーディションがあります。どうぞ奮ってご参加ください。また生徒さんやお知り合いの方々にもお知らせくださるようご案内いたします。

山田 実(本学会国際部担当理事)

・条件 1. 1979年1月1日以降生まれ。 2. アリア、3曲を準備。

・費用 30ユーロ

・期日と場所 2011年1月8日~11日 ベルリン

2011年1月14日~15日 サンクト・ペテルブルク

・申込締切り 2010年12月10日

・詳細問合せ 学会事務局 TEL./FAX. 047-479-5701

◆第9回例会(11月例会)◆

現役声楽家の演奏とお話

—松田奈緒美先生の演奏曲目決定—

とき 平成22年11月28日(日)

ところ 東京芸大音楽学部 第6ホール

シューマン

- ・Die Lotosblume はすの花
- ・Röslein, Röslein! ばらよ、ばらよ!
- ・Meine Rose 私のばら

プフィツナー

- ・Venus mater 母なるヴィーナス
- ・Verrat 裏切り
- ・Ist der Himmel darum im Lenz so blau?
春の空はそれゆえこんなに青い
- ・Unter der Linden 菩提樹の下で
- ・Sonst 昔語り

◇ ◇ ◇

聴音と戦争

小林武夫

第二次世界大戦中、私は静岡県浜松市に住んでいた。当時の小学校(国民学校)では、低学年でも音楽(唱歌)の授業に音感教育が行われた。飛行機の爆音を聴いて、敵の飛行機か、機種は何か、高度と飛行方向はどうかを識別するのに、子どもの聴覚を訓練して役立たせようとしたのである。一般向けには、敵味方の飛行機の爆音を録音したレコードも市販されていた。

当時の文部省と軍部は、子どもの音感を早期から訓練する方法がドイツで行われていたことを知り、日本に導入したのである。私が小学2~3年生のとき、音楽担当の女性教師A先生は、ピアノで和音を弾いて、ハホトとかロニトと反射的に答えるように私たちを繰り返して訓練することに音楽の授業の大部分を費やした。A先生からハホトはツェー・エー・ゲー(CEG)というように教えこまれた。私が最初に覚えた外国語のアルファベットはドイツ語だったわけであ

る。私たち鼻たらし小僧は、大声を張り上げて歌でも歌いたいののに、毎時間聴音訓練ばかりだったからフラストレーションを感じた。当局の指導案には、どの和音から開始するかという順序もあったようだ。私は聴音はよくできるとほめられたが、音楽の授業は好きになれなかった。こんな訓練を受けても、私にはもちろん絶対音感は身につけていない。

戦争の末期になると、アメリカの爆撃機B29は、大編隊を組んで連日連夜やってきた。子どもの音感が役立つ牧歌的レベルの話ではなかった。敵機の投下する焼夷弾で、浜松市は焦土と化した。私は辛くも生きのびた。敗戦後もときにB29が飛ぶことがあった。こんなとき私は夜中でも外に飛び出そうとした。それは恐怖の音だったのである。私は今でもB29の腹に響くような特徴ある爆音を識別できる。

聴音器という兵器もあった。第一次世界大戦末期、航空機が戦闘に使用され始めたときに空襲を予知するため、蝙蝠の耳介を模して集音装置を造り、聴覚が敏感な兵士を選んで訓練し聴音手とした。夜間は、これに探照燈(照空燈)という空中投光器を組み合わせて飛行機を捕捉しようとした。

東京音楽学校(今の東京芸大)で金管楽器を専攻した学生が、軍楽隊に徴兵され、彼は敵機の来襲時にホルンやチューバのヴァルヴやマウスピースをはずし、ラッパを空に向け、聴音器として使用した。しかし、人間の五感に頼るだけの方法は、第二次世界大戦の飛行機のスピード増大についていけず、レーダーに取って代わられた。

海軍では、潜水艦や魚雷を見つける水中聴音の研究も行われた。東大耳鼻科元教授の颯田琴次先生(芸大で音声学を講じた)もこのプロジェクトに駆り出されたと伺った。

(帝京大学ちば総合医療センター)

[会員だより]

●豊田喜代美 演奏会

ショパンの詩情—生誕200年によせて

日時：11月29日（月）19:00 開演
会場：沖縄県立芸術大学 奏楽堂ホール
主催：沖縄県立芸術大学音楽学部

●平松英子 演奏会

ドイツ浪漫からの道

一東京文化会館レクチャーコンサート

〈祖国への愛〉シリーズ

11月26日（金）19:00 開演

曲目：シューマン/ミルテの花・クルミの木・
ズライカの歌

R.シュトラウス/明日・眠りにつくとき

G.マーラー/美しいトランペットの響

くところ・私はこの世に忘れられ

山田耕筰：鐘が鳴ります・この道 他

●米山文明

・NHK・TV：野村萬斎氏をテーマにした番組
に出演。6/4 BS・Hi、6/5 BS-2

・ヤマハにて講演：6/5 町田、11/18 渋谷

・ヴェルディ協会講演：9/25 東京文化会館4階

・ラジオ日本：はかま満緒氏との対談。9/27
(M.ジャクソンと石井好子)、10/4 (C.バトル
と崔岩光)

・近刊：小著『声の呼吸法』（平凡社）を新装改
訂増補し「平凡社ライブラリー」（文庫版、書
名未定）として出版予定。

・「呼吸と発声」の研究所、法人化の案内
従来、私のプライベートな研究所だったもの
を今回、公的な法人組織に変更設立しました。

正式呼称：一般社団法人

米山文明 呼吸と発声研究所

(Institute Atem-Tonus-Ton Yoneyama Tokyo)

設立趣旨

海外の研究所、大学などからの共同研究の申
し入れがあり、わが国にもそれに対応できる
研究機関が必要であることと、日本における
発声指導者の養成・認定ができる公的施設が
必要と思われるため。今回、上記名称で総務

省から正式に認可されましたのでご利用くださ
い。今後は、「呼吸と発声」の実技と理論の追求
と指導者養成の面で、一層の推進、発展を実行
してゆく予定です（連絡先は、呼吸と発声研究
所ホームページで）。

〔お知らせ〕

「声楽発声用語集」発刊のお知らせ

関係各位のご尽力により「声楽発声用語集」が
発刊されることになりました。

会員の皆様には、来る11月27日（土）開催の
教育部会、28日（日）の第92回例会会場で配布
いたします。

当日欠席の方には、郵送料のこともあり、原則
として次回印刷物送付の際に同封いたしますが、
お急ぎの場合は、別途発送も可能ですので、ご希
望の方はFAX、またはハガキ、Eメールで学会事務
局宛てにご連絡ください。

なお、頒価1,200円ですが、会員の皆様からの
代金徴収はありません。会員の方々はもとより、
声楽発声に携わる方、生徒さん方にぜひとも多数
お勧めくださるようお願いいたします。

〔購入申込先〕学会事務局「用語集編集担当」宛
FAX、ハガキ、Eメールで。

なお、購入部数、送付先（自宅、学校等）を
明記してください。

〔事務局だより〕

◎学会誌へ投稿をお待ちしております。投稿の際
には研究発表規程をお読みください。また、学
会通信にも会員各位の演奏会、出版、CD制作
や近況等についてお寄せください。

事務局長 川上勝功

| | |
|--|-------------|
| 学会通信 第19号 | 平成22年11月18日 |
| 日本声楽発声学会事務局 | |
| 〒275-0005 習志野市新栄2-9-2 西村暁子方 | |
| jars@hotmail.co.jp TEL./FAX.047-479-5701 | |